

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

平成30年度事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

◆事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

(1) 国内森林保全事業

- ・ 岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業
- ・ 千葉 君津市、木更津市での植樹地メンテナンス事業
- ・ 埼玉 飯能市での森林整備事業
- ・ 奈良 吉野町での間伐／PAL植樹事業
- ・ 奈良 吉野町でのふるさとの森再生事業
- ・ 広島 竹原市での植樹メンテナンス事業
- ・ 広島 呉市での植樹事業
- ・ 間伐材利用促進事業(結糸プロジェクト)
- ・ 生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人CEPAジャパン事務局)

(2) 海外環境保護事業

- ・ ブラジルでの河岸林保全事業

(3) バガス(非木材紙)普及事業

- ・ バガス普及啓発事業(大学学園祭へのモールド導入)

(4) 環境助成金プログラム支援事業

- ・ 環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)
- ・ 分散型電源導入事業(経済産業省 資源エネルギー庁)
- ・ 廃炉・汚染水対策事業(経済産業省 資源エネルギー庁)

◆2018年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

1) 国内森林保全事業

【岩手・西和賀町での植樹地メンテナンス事業】

岩手県和賀郡西和賀町にあるザ・パックフォレスト活動第 1 号地において、地元の「西和賀森づくり隊」のメンバーを中心に、植樹地の下刈りを行なった。今年はお盆前の 7 月 28 日(土)午前 9 時頃から実施。県道から植樹地へアクセスする私道も雑草が覆い自動車が通れないほどであり、私道、植樹地やザ・パックフォレストの看板周辺を中心に刈り払い機を使って作業を実施した。

今回は西和賀森づくり隊の隊長新田さんが体調不良で参加されなかったのは残念だが、新たに地元の若手メンバーも参加してくれた。皆さん野良仕事は手慣れており、半日かけて植樹地をきれいにした。引き続き年 1 回、地元の方々と交流しながら、植樹地の整備、維持に努めてゆく。



雑草が生い茂った植樹地



刈払い後の植樹地。樹高 7~8mほどになっている



刈払い後のザ・パックフォレストの看板



西和賀森づくり隊メンバー。刈払い機作業中

【千葉県木更津市真里谷「皆登里(みどり)の森」、

君津市「豊果(ゆたか)の森」&「四季彩(しきさい)の森」の育林活動】

6月23日、9月15日(雨天のため1回目を1日で切り上げ、2日に分けて)、刈り払い機4台、チェーンソー、ノコギリ、剪定バサミ等を用いて、千葉の植樹地3サイトの下刈と苗木のメンテナンス作業を実施した。

◆千葉県木更津市真里谷「皆登里(みどり)の森」 <6月24日>

参加者はEFF1名+7名。中央部から奥と斜面上部は丈3-4mの灌木のため刈払機での作業は無理だったため、苗木の周辺部分を剪定鋏とノコギリで刈り、陽が当たるようにした。条件の良い木は6m程度、逆に陽の当たらない場所の苗木は細く、その差は歴然だった。昼食後も同じ作業を継続し、手前部は苗木を残して刈り終える。翌日の天気がよくなることを祈って、宿泊予定のかずさの森へと向かった。しかし、残念ながら雨はあがらず、豊果(ゆたか)の森と四季彩(しきさい)の森については、後日あらためて実施することを決定した。

◆君津市豊果(ゆたか)の森 <9月15日>

参加者はEFF1名+3名。平地部の草刈り、傾斜地部の草刈りとアブラギリの伐採、サプリガードの撤去回収(平地部道路側の枯死したもの、約20セット)を実施した。生育状況は、枯死したものは除いては順調に生育している。柿2本とミカン2本に実がなっていた。継続して、丁寧に育てていきたい。



豊果(ゆたか)の森

◆君津市四季彩(しきさい)の森 <9月15日>

参加者は、豊果(ゆたか)の森と同じ、EFF1名+7名。通路部の草刈り、手前側通路下側のアブラギリ伐採、パンパンに膨らんだサプリガードを外す作業(約20本)、散乱している資材の片付け。外したサプリはまとめておいてある。生育状況はよろしい。カツラ、オニグルミ、クリなどはサプリが膨らむほど太く生長している。イロハモミジ、トチはそこまで太くなっていない。



四季彩(しきさい)の森

豊果(ゆたか)の森、四季彩(しきさい)の森、両サイトとも、ヒルが大量発生しており、全員が数カ所を喰われる。高橋は地べたの資材片付け作業したためか、首を9カ所と手首を4カ所喰われた。

今後の活動については、君津2サイトについては苗木の生育が大変良好なので、ヒルシーズン(5~10月)の草刈りは実施せず、サプリガードのメンテナンスとアブラギリの伐採を中心に行っていく方針としたい。3~4月の新緑、11~12月の紅葉、または冬の落葉の時期が良いだろう。

【埼玉・飯能市での森林整備事業】

埼玉県飯能市での保全活動も7年目を迎えた。2018年度も、サイタ工業株式会社からの協賛、埼玉県助成の支援を得て、植樹地の草刈り活動と間伐体験活動に取り組んだ。

◆草刈り活動 <10月13日>

当初は9月1日に実施予定としていたが、2度の台風が関東を直撃したため、10月中旬の草刈りになってしまった。参加者はEFF1名+3名。台風の影響で直径30cmの杉が倒れ、アクセス不能になっていたため、チェーンソーで玉切りして除去、通行可能にした。3、4年目の植林地は下から草刈りをスタートさせて、上部が残ったが7割ほどを刈ることができ、草で覆われていた苗木を露出させた。5年目の植林地は全面を草刈りすることができた。最後に、下の昼食スペースの草刈りを完了させた

1、2年目の植林地については、急峻な傾斜であるため、草刈りの作業は㈱フォレスト萩原に委託した。委託費は助成金から捻出した

◆間伐体験活動 <12月15日>

夏～秋季にかけての台風で草刈り活動が2度延期になったため、間伐体験活動も後倒しにせざるを得ず、異例の12月中旬の実施となった。参加者全10名(ボランティア6名(うち親子2組)+指導者2名+EFF2名)を2つの班に分けた。

今回は、参加者のほとんどが間伐の活動自体が初めての人たちだったが、指導者の丁寧な手ほどきを受け、各班4～6本、約10本を伐採した。昼食はおにぎりと、㈱フォレスト萩原特製のキノコ汁を皆で堪能した。昼食の際中、間伐材でスウェーデントーチづくりにチャレンジしたが、気が湿っていたためか火力が強くならず、点火できなかった。

晴天の中とはいえ、12月中旬の飯能の山は大変寒く、かなり体力を消耗したと思われるが、参加いただいたボランティアからは非日常の体験が楽しかったという感想をいただいている。



間伐初体験のボランティアの皆さん。高校生が2名参加した

【奈良・吉野町での間伐／PAL 植樹地整備事業】

◆元気森・MORI in 吉野山

2018 年 11 月 10 日、奈良県吉野山で、一般市民と協賛企業のボランティアを集めた間伐活動「元気もり・MORI in 吉野山」を実施した。毎年恒例のイベントだが、2016 年、2017 年と 2 年連続であいにくの悪天候のため中止としており、3 年ぶりに開催することができた。にもかかわらず、町内外から、多くのリピーターを含む 87 名もの参加者に参集した。87 名を全 8 班に分け、各班の林業専門家の指導のもと吉野の山の森林整備に汗を流した。

まず、伐る木を選び(選木)、倒す方向を決め、縄を木にかけ、腕の反動で上へ上げていく。ベテランボランティアは、久しぶりの縄上げも慣れた手付きだ。鋸で 3 分の 1 程度の切込みを入れた後は、反対側から鋸で切っていく、ある程度のところで縄を引っ張って木を倒す。

作業終了後には、参加者全員で、大変暖かい日の中、配給を受けた豚汁とおにぎりで一息つき、各々の活動成果について語らい、交流した。昼食後は、吉野の間伐材を材料にしたベンチを制作した。観光客が一息つくためのベンチが劣化、不足しており、吉野山の観光振興のために有効に活用されることを期待したい。



<実施概要>

日時：2018 年 11 月 10 日(土) 場所：奈良県吉野郡吉野町 吉野山観光駐車場から徒歩
活動：間伐予定地 1ha(40 年生スギ・ヒノキの混合林)のうち 1ha の山林の 20%(約 120 本)の間伐

<参加者> 87 名

ザ・パック(株)、(株)エディオン、吉野中央森林組合、吉野山林業研究会、吉野山自治会、一般参加の皆様、
NPO 法人地球と未来の環境基金

◆世界(文化)遺産吉野の山の森林保全事業

2010 年 11 月より、株式会社パル、町内の山林所有者北岡本店、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社と 5 者協定「世界(文化)遺産吉野の山の森林保全と育成を目的とした「PAL/フォレスト植林」」を結び、生物多様性の森への保護と育成を目指して、緑の保全活動と植林事業を展開している。

2018 年は植樹地の下草刈り、枯れた苗木の植え替え、鹿の食害防除ネット(サブリガード)の補修作業を実施した。



<実施概要>

日時：2018 年 11 月 17 日(土)

<参加者> 34 名

(株)パル、ザ・パック(株)、吉野中央森林組合、NPO 法人地球と未来の環境基金

【奈良・吉野町での子どもたちの未来の森づくり事業】

前年度、奈良県吉野町の幼稚園等の子どもが校庭などでどんぐりの苗木を育てて、これを吉野山の民有林に植樹する活動を行なった。活動資金は国土緑化推進機構の緑の募金助成(ふるさとの森作り事業)を活用したが、2018 年度の活動も当該助成(名称が「子どもたちの未来の森づくり事業」に変更)を資金源として活用した。企画、準備には吉野町中央森林組合、地元教育委員会が関わった。

植樹活動は 2018 年 11 月 18 日(日)に実施した。前年度は幼稚園で育てたどんぐりの苗木を植えたが、園で苗木がうまく育たず枯れるなどして必要な苗木が調達できなかったことから、苗木は森林組合で調達してもらった。当日は吉野町の幼稚園児とその親御さんら総勢 15 名ほどが参加し、急斜面ではあったが、苗木(120 本)を植樹した。

【実施概要】

日時： 2018 年 11 月 18 日(日)10 時～ 場所： 奈良県吉野郡吉野町檜尾 50、59(0.15ha)

参加者： 吉野町 わかばこども園の園児、父兄 15 名 植樹本数： 120 本



急斜面でお母さんと一緒に植樹作業



苗木横に名前入りのプレートを設置



助成いただいた緑の募金(協賛:ファミリーマート)の横断幕前で記念写真

当日はザ・バック OB で元当団体理事の平田さんも手伝いに来ていただいた



【広島・竹原市での植樹地メンテナンス事業】

竹原市のフォレスト活動植樹地（竹原市有林）での下刈り活動は、今年度は「平成 30 年 7 月豪雨」の影響を受けて中止となった。同豪雨では竹原市内でも数箇所では土砂崩れが発生、市内を流れる河川が氾濫するなど大きな被害が出た。豪雨後、尾三地方森林組合に植樹地の状況を確認してもらったところ、幸い植樹地に特段の被害はなかったことから、当初は実施に向けて準備を進めていた。しかし、豪雨によって地域住民の足となっている JR 呉線が多く区間で長期間不通となり、例年参加いただいている地元の竹原高校の生徒が下刈り日となる土曜日に登校することが困難（親の車等で送迎が必要になるため）という事情から、竹原高校の西村校長とも協議し、中止を決定した。西村校長によれば、豪雨被害から間もない時期での山での活動は、生徒の父兄からも不安を訴える声があったようだ。植樹地の下刈り・メンテナンスについては、今年度は尾三地方森林組合に委託して実施した。植樹地の現況は下写真の通りで、2014～2015 年にかけて植えて 3～4 年が経過、概ね順調に成長しており、もう少し丈が伸びれば下刈りも不要となる見込みである。



（写真左）平成 30 年豪雨後（H30. 8）の竹原市（市有林）植樹地の様子

幸い土砂崩れなどは発生しておらず植樹地も無事

（写真右）森林組合にて下刈り後。2015 年に植栽した松がよく活着、50～60cm に育っている



（写真上）豪雨で被災した竹原市内の様子。土砂崩れや河川の氾濫などが数箇所では発生していた。

【広島・呉市での水源林保全事業】

広島県呉市で前年度からスタートした活動は、2 年目を迎えたが、大変悲しく残念な出来事が重なった。活動地である野呂山の水源エリア(安浦町)は、「平成 30 年 7 月豪雨」により甚大な被害を受けた。当団体が地元の共有山保存会、安浦漁協と連携し、2018 年 1 月に植樹を実施した場所も、豪雨による土石流で完全に崩壊した。豪雨発生直後、尾三地方森林組合に現地状況を確認するも、植樹地へつながる道路が土砂崩れ等で寸断され近づけないとのことで、全く状況がつかめずにいた。テレビ等の報道で安浦町の被災状況が映される様子から、相当な被害が出ている可能性が推測されたことから、1 ヶ月ほど経った 8 月半ばに状況確認のため現地入りした。依然植樹地付近の道路は土砂で寸断されていたことから、車でのアクセスを断念し、途中から徒歩で土砂崩れ場所を乗り越え植樹地まで到着。最悪の光景を目の当たりにした。まさに言葉を失う悲惨な状況で、山腹から谷筋に沿って土石流が発生し、膨大な量の土砂が植樹地を押し流し、植樹地下の道路を越えてダム湖まで達していた。



山腹からの土石流が植樹地を押し流した



土砂は植樹地下方のダム湖まで達していた



植樹地につながる道路も至る所で土砂崩れが発生



植樹地下の道路も完全に埋まっていた

2018 年 6 月には、1 月に苗木を植えた植樹地の下刈りを地元の共有山保存会有志と一緒に実施した。豪雨が発生する 1 ヶ月前のことで、まさか 1 ヶ月後に手入れした植樹地が土石流に飲まれることになるとは、誰も想像だにしていなかった。



豪雨発生 1 か月前(H30.6)地元共有山保存会有志で下刈りした際の植樹地の様子

また、豪雨によって共有山保存会会長の中原謙治氏も自宅ごと土石流に飲まれた。住居の 2 階と 1 階の間に挟まれながら、幸い中原氏ご夫妻とも九死に一生を得て、間一髪のところまで救助された。その後、土石流に飲まれた際に負った怪我は徐々に癒えて来ていたが、数年前から治療を続けておられた癌が急に悪化、11 月 3 日急逝された。

中原氏は竹原市でのザ・バックフォレスト活動(4 号地)立上げ時の 2004 年から、芸南森林組合(現尾三地方森林組合)組合長として長年尽力いただいた方である。豪雨の土石流に飲まれながら生還された際は、行政の力を借りて一定程度現地の復旧に目処が立ったら、是非また植樹を再開したいと言われていた。地域の山の整備に思いを持ち、森林組合退職後も色々な方を巻き込んで活動を続けてこられた氏の思いを受け継ぎ、何年か後になろうが、安浦町での植樹活動を再開できるよう共有山保存会や安浦漁協の方と話し合っていきたい。長年に亘って竹原市、呉市での森林整備活動に尽力いただいた中原氏のご冥福を心から祈りたいと思う。

今期実施した活動は以下の通りである。

◆下刈り <6 月 3 日>

広島県呉市安浦町中畑地区(野呂川ダム周辺の山林)の山林(総面積は約 3.0ha で下刈り対象地は約 0.25ha)において 2018 年 1 月に植樹した場所の下刈りを実施した。当日は地元の共有山保存会の有志 8 名ほどが集まり、まだ植えて間もなく雑草の間に隠れている苗木の周囲を中心に刈り払い機を使って草を刈った。

【間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト）】

奈良県吉野町の間伐材を原料に布をつくる「結糸」(YOUITO)プロジェクトは、2013 年度(平成 25 年度)からスタートして前期までで 5 年が経過した。担当者が営業に奔走し、大手百貨店からの引き合いで催事に商品を出したり、様々な展示会に出展するなど販路開拓に努力した。しかし、売上げは年額で 100 万円前後に留まり、営業経費をカバーしきれない状況が続いたことから、今期からは積極的な営業活動は行わず、現在ある生地と商品の在庫を徐々に現金化、撤退して行く方針とした。

ブックカバー、ペンケース、ご祝儀袋の 3 商品については、日本橋にある奈良県のアンテナショップ「まほろば館」、フェアトレード商品やオーガニック食品など扱う通販サイト SoooooS(運営会社:<https://soooooos.com/>)などで販売を継続している。また、今期新たに飛騨五木(株)(本社:岐阜県高山市)が名古屋市で運営する moriwaku café(名古屋市中区錦 2-90-20)で販売していただけたらとのお申し出があり、少量ではあるが扱っていただくことになった。

期末時点での棚卸商品額は以下の通りとなっている。引き続き在庫の現金化を進めていきたい。

- 商品： 510,898 円
- 生地： 621,913 円



名古屋市にある moriwaku café。店内内装はふんだんに木材を使っている。

【生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人 CEPA ジャパン事務局)】

2010 年 10 月に開催の生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)において採択された「愛知目標」の短期目標を達成するため、主導的な役割を果たした「生物多様性条約市民ネットワーク」の活動が母体になり「一般社団法人 CEPA ジャパン」が設立された。当法人は CEPA ジャパンからの依頼を受け 2013 年より事務局業務の一部を受託し、今年も地球環境基金助成事業に係わる事務をはじめ、国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)主催の生物多様性アクション大賞事務局業務も担っている。

●生物多様性アクション大賞 2018 概要●

「国連生物多様性の 10 年日本委員会」(UNDB-J)では、国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう「5つのアクション」(たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう)を広く呼びかけている。「生物多様性アクション大賞」は、全国各地で行われている5つのアクションに取り組む団体・個人を表彰し積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化に貢献するもので 2013 年度に創設。2014 年度より UNDB-J と一般財団法人セブン-イレブン記念財団との共催で実施。昨年度より、環境大臣賞、農林水産大臣賞、SDGs 賞が新設されている。

■募集期間: 2018 年 7 月 21 日(土)～2018 年 9 月 3 日(月)

■大臣賞決定・授賞式: 2018 年 12 月 7 日(金) ■URL: <http://5actions.jp/award/>

■実施体制

主 催: 国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J) 共 催: 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協 賛: 前田建設工業株式会社 セキスイハイム 特別協力: 公益社団法人国土緑化推進機構 経団連自然保護協議会

協 力: 国連広報センター、富士フイルム株式会社、株式会社オルタナ

後 援: 生物多様性自治体ネットワーク、朝日新聞社 共同通信社 日本経済新聞社 毎日新聞社、環境省、農林水産省

事務局: 一般社団法人 CEPA ジャパン

審査委員: 渡邊綱男(IUCN 日本委員会委員長)※審査委員長※、三輪隆(株式会社竹中工務店)、沖修司(国土緑化推進機構)、小野弘人(セブン-イレブン記念財団)、川廷昌弘(CEPA ジャパン)、坂田昌子(UNDB 市民ネット)、道家哲平(日本自然保護協会)、星野智子(環境パートナーシップ会議)、中川一郎(農林水産省大臣官房政策課環境政策室長)、中澤圭一(環境省自然環境計画課生物多様性主流化室長)

■応募総数: 100

■環境大臣賞: 「地域循環型野菜を地域共通ブランドに！」おかえりやさいプロジェクト(愛知県)(たべよう部門優秀賞)

■農林水産大臣賞: 「『自分たちの地域と畑は自分たちで守る』くまもと☆農家ハンターの野生鳥獣対策」くまもと☆農家ハンター(熊本県)(まもろう部門優秀賞)

■5部門優秀賞: ふれよう部門・株式会社 JTB(東京都)、つたえよう部門・電機・電子 4 団体環境戦略連絡会(東京都)えらぼう部門・パナソニック株式会社(大阪府)

■特別賞(4 賞): 復興支援賞・NPO 法人森は海の恋人(宮城県)、グリーンウェイブ賞・コクヨ株式会社(大阪府)セブン-イレブン記念財団賞・豊かな海づくり Project-T(福岡県)、SDGs 賞・Blue Earth Project(兵庫県)

■審査委員賞: 糸島コミュニティ事業研究会(福岡県)、気仙沼市立大谷中学校(宮城県)、アトリエ マンセル(東京都)、筑後川まるごと博物館運営委員会(福岡県)、岐阜県立岐阜高等学校自然科学部生物班(岐阜県)、NPO 法人嘉瀬川交流軸(佐賀県)、ジューエルイー合同会社(沖縄県)、NPO 生活工房つばさ・游(埼玉県)

この他 38 団体が入賞



(2) 海外環境保護事業

【ブラジルでの河岸林保全事業】

ブラジルのカウンターパート NGO「アマゾン森林友の協会(ASFLORA)」の協力を得て、今年度もアマゾン地域での河岸浸水林保全事業を継続した。2018 年 3 月に国土緑化推進機構(緑の募金)の青木正篤常務を緑の募金の助成(2008 年から 5 年間)により実施したベレン市近郊のサンタ・バルバラ郡でのアグロフォレストリー導入エリアを案内し、その成果(アグロフォレストリーの定着のみならず、地域コミュニティの経済的な向上)で好評価をいただいたこともあり、引き続き緑の募金の助成を得ることができた。本年度 7 月からこの資金を活用し、河岸浸水林地域にアグロフォレストリーを導入したアバエテトゥーバ市近郊のサン・ジョアン・バチスタ入植地で、苗畑施設の設置や、植栽後の管理等への継続的な伴走支援や森林環境教育や啓発活動を行なっている。

(苗畑施設概要)

縦 6m×幅 8m×高さ 3.2m(氾濫原であるため苗床となる床面は地表から 1.2mの高さ)



(写真左) 建設中の苗畑施設、氾濫原にあることから高床式である。
(写真右) 完成した苗畑施設、苗床部はセメントで覆われている。

(環境教育実績)

2018 年 12 月 21 日: アバエテトゥーバ市(サン・ジョアン・バチスタ入植地)
(参加者) 小学校児童、教職員(約 210 名)



(写真上) サン・ジョアン・バチスタ入植地の学校での環境教育風景、児童、教職員約 210 名が集まった。

(3) バガス(非木材紙)普及事業**【大学の学園祭へのバガスモールド(エコ容器)導入】**

2009 年より、エコ学園祭を推進する商材としてバガスモールドの導入を働きかける活動を展開している。砂糖きびの搾りかす(バガス)を原料にしたバガスモールドは、未利用資源を活用、木材資源の消費低減から森林保全に寄与するとともに、焼却処理しても有害物質を発生させず、土中で容易に自然分解できるという優れた特徴を持つことから、約 20 年前から大学生の学内環境活動の一つとして注目されてきた。

本活動は、全国の学園祭におけるバガスモールドの普及拡大を狙いとしており、最終的には紙関連業界(卸商や小売店など)に対するバガス(非木材紙)への認知度向上および経済的インセンティブの喚起といった社会的インパクトを目指している。

2012 年から、バガスモールド導入に係る事柄だけではなく、他の環境企画やバガスモールドの土壌分解のコツ、大学祭自体の来客数増加施策、実行委員会の人材戦略やミッション・ビジョン作りなどの相談にも乗るなどしながら、導入を呼びかけてきたが、昨今の大学生数の減少、環境サークルの解散などで、そもそも大学祭の環境対策に取り組む大学が減ってきている。今後の普及方法については、抜本的な見直しが必要と感じている。

一方、近年、マイクロプラスチックによる海洋生態系汚染の問題が、メディアで頻繁に取り上げられるようになり、市民や地方自治体、民間企業がプラスチックフリーの活動を模索し始めている。本事業においても、この重要な機会を逃さず、未利用バイオマスを有効活用、環境負荷を低減し、持続可能な社会へと牽引していけるプロジェクトへと育てていきたい。2019 年度は普及啓発ツールを制作予定。

<2018 年度 学園祭でのバガスモールド導入実績(個数)>

大学名 (日時)	どんぶり		パック		丸皿		平角皿		コップ ^o		モールド [*] 合計	木製 スプーン&フォーク #162、#140 162 mm、157 mm
	MD-3 φ 154 × 54	MD-5 φ 160 × 68	MD-6 φ 135 × 47	MD-7 φ 112 × 45	MP-1 184 × 129 × 44	MP-2 171 × 118 × 37	MM-9 φ 152 × 47	MT-1 200 × 111 × 13	MT-3 200 × 140 × 17	L051 φ 80 × 91		
信州大学 松本キャンパス (10月27~28日)			300								300	
東京農業大学 世田谷キャンパス (11月2~4日)	22,000					19,000			3,600	21,000	65,600	1,500
東京農業大学 厚木キャンパス (11月3~4日)	2,700	2,400	1,400	4,050	3,600	4,200	2,400	3,950	1,550	10,150	36,400	400
合計	24,700	2,400	1,700	4,050	3,600	23,200	2,400	3,950	5,150	31,150	103,700	1,900

<その他のイベント等>

顧客名	どんぶり		パック		平角皿	コップ ^o	モールド [*] 合計	木製 スプーン #162 162 mm
	MD-5 φ 160 × 68	MD-7 φ 112 × 45	MP-1 184 × 129 × 44	MP-7 236 × 155 × 44	MT-1 200 × 111 × 13	L051 φ 80 × 91		
足尾に緑を育てる会 (納品日:4/16)	1,200						1,200	
株式会社コーッキング (納品日:5/30)				1,600			1,600	
諏訪湖まんまる祭り (納品日:9/21)		200		200	100	200	700	200
株式会社コーッキング (納品日:10/26)			200				200	
大和建鉄株式会社 (納品日:11/16)						500	500	
合計	1,200	200	200	1,800	100	700	4,200	200

(4) 環境助成金プログラム支援事業**【環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)】**

パナソニック(株)との協働で実施している、NPO/NGO の組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPO サポート ファンド』は、新規の公募は 2017 年度で終了としており、2018 年度は継続募集のみを受付けた。助成テーマは変わらず「客観的な視点を取り入れた組織基盤の強化」とし、第三者のアドバイザーを導入することで実効性の高い組織課題解決の取り組みを推進し、環境分野の市民活動の持続的発展、社会課題の解決促進、社会の変革へ貢献することを目指す。

助成への応募数は 7 件(2015 年募集:2 件、2016 年募集:2 件、2017 年募集 3 件)。助成団体の選考プロセスは、8 月 3 日に受付を締め切り、応募のあった 7 件について 3 人の選考委員に案件評価を依頼した。その上で 9 月下旬に選考委員会を開催、助成先候補として 5 団体に絞り込んだ。9 月下旬～10 月中旬に事務局が助成先候補 5 団体に対し、選考委員会が出された指摘・確認事項に基づいてヒアリング(継続募集ゆえにメールコミュニケーションによる)を実施した。10 月下旬にヒアリング結果を選考委員会へフィードバック、選考委員の最終意見を取りまとめ、パナソニック(株)との協議および選考委員長の決裁を得て最終的な助成先として 4 件を選定、計 700 万円の助成を確定させた。

2018 年に本助成を受けて組織基盤強化に取り組んだ 8 団体[助成事業期間: 2018 年 1 月～12 月]からは四半期報告書で助成事業の進捗について報告を受け、7 月上旬に各団体への中間ヒアリングを実施、助成事業の進捗状況を確認、事業実施上の問題点や下半期へ向けた計画の変更などを協議した。2019 年 2 月 26 日には、助成先 8 団体を集めて成果報告会(於 パナソニックセンター)を開催、事業成果の発表と共有を行い、今後の活動に対して選考委員や参加者から意見やアドバイスをいただいた。

<Panasonic NPOサポート ファンド 2018 年募集事業(継続) 助成先>

助成団体	所在地	代表者(役職)	助成額(万円)
【組織基盤強化事業】(継続 2 年目)			
(特活)足尾に緑を育てる会 「足尾の山の緑化活動により、広範な自然環境の健全化と地域活性化を目指す活動の組織基盤強化」	栃木県	秋野 正峯(会長)	130
(特活)持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会 「持続的な自伐型林業推進に向けた事業推進基盤及び広報 PR 組織基盤強化」	東京都	中嶋 健造(代表理事)	200
(特活)山村塾 「農家が主体となった都市農山村連携事業を継続するための組織基盤強化」	福岡県	宮園 福夫(理事長)	200
【組織基盤強化事業】(継続 3 年目)			
(認定)JUON NETWORK(樹恩ネットワーク) 「より多くの人が活躍するための組織基盤強化」	東京都	生源寺 眞一(会長)	170
助成総額(4 団体)			700

【分散型電源導入促進事業費補助金】

当法人では、平成25年5月より、省エネルギーや電力需給の安定化を目的とした「分散型電源導入促進事業費補助金」の基金設置法人として、天然ガスコージェネレーション、自家発電設備(コージェネレーションシステムにおける発電設備を含む)の導入や燃料費に対して補助金を交付する事業を実施している。

本事業は、ガスコージェネレーション推進事業と自家発電設備導入促進事業に区分され、両者とも補助金の交付は終了している。平成30年度は前年度に引き続き、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に伴う補助金の返還、基金への繰戻しなどの業務を行ない、自家発電設備導入促進事業において取得財産の処分事案が1件発生し、これに対応した。

平成27年5月に交付決定の取消を行ない、補助金(5億円)の返還を求めているテクノ・ラボ(株)の事案については、当時の同社の実質経営者であった岡登和得氏への刑事裁判は最高裁での有罪判決が確定した。

- 判決確定日：平成30年8月28日
- 裁判結果等：上告棄却(懲役8年、罰金300万円)
- 罪状：関税法違反、消費税法違反、地方税法違反、私電磁的記録不正作出・同供用、詐欺

これを受けて、資源エネルギー庁と協議の上で、平成30年12月25日、テクノ・ラボ(株)に対しての5億円の補助金返還等に伴う民事訴訟を提訴。現在、本事案を委任している顧問弁護士の石井邦尚氏、事務局を委託していたみずほ情報総研(株)と協力し、公判前整理前手続きに対応している。

【財産処分の状況】

ガスコージェネレーション推進事業(事務局：(一社)都市ガス振興センター)

- 財産処分の報告があった件数： 0件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0円

自家発電設備導入促進事業(事務局：みずほ情報総研(株))

- 財産処分の報告があった件数： 1件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 1,561,866円

【廃炉・汚染水対策事業費補助金】

当法人では、平成26年2月より、我が国の科学技術の水準の向上及び廃炉・汚染水対策を円滑に進めることを目的とした「廃炉・汚染水対策事業費補助金」の基金設置法人として、廃炉・汚染水対策に資する技術の開発を支援する事業に対して補助金を交付する事業を実施している。

本補助金の交付規程では、補助事業の完了した日の属する補助事業者の会計年度の終了後5年間、補助事業者の毎会計年度終了後90日以内に補助事業に係る収益状況について収益状況報告書により基金設置法人に報告しなければならないとされている。平成27年度末までに全ての補助事業は終了しており、当法人ではこの規程に基づいて平成28年度より収益状況報告書の收受、確認の業務を行なっている。

平成30年度は平成31年3月末までに38件の収益状況報告書を收受、確認し、収益が生じたと認められた事業者はなかった。また、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分の事案が2件発生した。いずれも補助金により取得した機器や設備を大学や関係企業に無償貸与するもので、補助金の返還は伴わない事案として資源エネルギー庁への報告を行なった。

【財産処分の状況】

- 財産処分の報告があった件数： 2件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0円

2018 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援



ザ・パック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、整備活動にも参加いただいています。



株式会社 パックタケヤマ

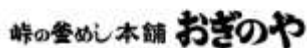
商品売上げの一部で国内森林保全活動をご支援いただいています。



* W A S A R A

株式会社 WASARA

国内・海外の環境保全活動をバガス紙器の売上げの一部でご支援頂いています。



株式会社 荻野屋

国内環境保全活動を環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

服部製紙株式会社

国内・海外の環境保全活動に環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。



株式会社 バリュープランニング

海外環境保全活動(ブラジル・アマゾンの熱帯雨林再生)に、キャンペーン期間中の売上げの一部をご寄付いただきました。

■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛

株式会社 エディオン

株式会社 エディオン

国内森林保全活動(奈良・広島)に、ご協賛・ご参加頂いています。

サイタ工業株式会社

国内森林保全活動(埼玉)に、ご協賛・ご参加頂いています。



前田建設工業株式会社

国内森林保全活動(全国)に、ご協賛・ご参加頂いています。

※ 社員と家族の環境活動を推進する社内エコポイント制度 Me-pon で貯めたポイントの交換先として、有志の方々から寄付をいただいています。

■ ポイントプログラムを通じたご寄附・ご支援



Gooddo (グッドウ)

社会貢献を身近にするプラットフォーム。WEB サイトでのクリック数をポイント化したご寄附をいただき、国内の森林保全活動に活用させていただきます。